OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2018年度　意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	面矢, 慎介
Citation	デザイン理論. 2019, 74, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/75311
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2018 年度　意匠学会賞選考結果報告

2018 年度学会賞選考委員会
委員長　面矢慎介

受賞業績

吉村典子氏
『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』（淡交社，2017 年 4 月刊）

受賞理由

吉村典子氏の著書『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』は，イギリスの陶芸家，ウィリアム・ド・モーガン（William De Morgan, 1839–1917）に関する日本で最初の本格的な著作である。

本書は四部からなり，第一部では，ド・モーガンの生い立ちから，独立して自身の工房を立ち上げるまでを詳しく調べ，第二部では，その工房（製陶所）での活動をさまざまな視点から見つめ，ド・モーガンの製陶所の製品について，素地，装飾技法，色彩，形態と図案の観点から分析し，その特色のひとつでもあるイスラームの陶器との関係にも言及している。第三部では，ド・モーガンとウィリアム・モリスやアーツ・アンド・クラフツ運動との関係を，妻イーヴリンの絵画についても含めて論じている。そして第四部では，ド・モーガンの製品のなかでも特にタイルが使われた五つの空間を紹介し，ド・モーガンの作品を分析するとともに，それらを用いた建築家や施主との関係にも論及し，ヴィクトリアン・アートのありかたを社会的，空間的に考察している。

著者の吉村典子氏は，イギリス各地のド・モーガンの作品のある主要な建物や美術館を訪れ，作品を詳細に調べるとともに，その建物や部屋や壁面との関係にも注目し，適切な写真を自ら撮影し，ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館やド・モーガン財団の所蔵写真とともに本書に多数使用して，詳細につけられた注釈とともに本書を陶芸史やヴィクトリアン・アート専門外の読者にも読みやすい独自の研究書としている。

本書は，長い時間をかけたイギリスにおける本格的調査研究に基づく学術的価値の高い出版物である。

2018 年度学会賞選考委員会は，複数の委員が著書を精査して検討を行い，意匠学会賞として顕彰するに値する著作であると判断した。この選考結果は 2019 年 5 月 11 日の第 1 回役員会に報告され承認を得た。